

<b>1 学校教育目標</b> 平成31年度熊本県教育委員会各課の重点及び取組の方向性をふまえ、本校の校訓「創造」「礼節」「勤労」のもと、励まし合い・認め合い・個性を高めあう教育をとおして、誠実で自立した産業人の育成を目指す。
--

<b>2 本年度の重点目標</b> (1) 学力の向上と教科指導の充実 ・基礎学力の向上 ・習熟度別授業の効果的な実践 ・教科指導の充実 (2) 生徒指導の充実 ・生徒支援の充実 ・情報モラル教育の徹底 ・交通安全指導の徹底 (3) キャリア教育の充実 ・将来への目的意識の確立 ・望ましい勤労観・職業観の育成 ・個に応じた進路指導 (4) 特別支援教育の推進 ・困り感を抱える生徒の把握 ・組織的な支援体制の構築 (5) いじめの防止等 ・いじめのない学校づくり ・いじめの早期発見・早期対応の取組み (6) 地域連携 ・地域に開かれた学校づくり (公開授業・体育大会・商工フェスタ・奎堂文庫展示資料室の一般公開) ・コミュニティ・スクールの機能の確立 ・ボランティア活動の推進、小中学校との交流、積極的な広報活動 ・菊池支援学校高等部山鹿分教室との交流 (7) 人権教育、道徳教育、主権者教育の充実 ・すべての教育活動において実践
--

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	育友会活動の充実	文書回収率	回収率、平均95%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心安全メール活用で保護者参加率の増加</li> <li>・雲生あるるの活用</li> <li>・早めの周知</li> </ul>	B	平均93%位の回収率であった。目標達成には及ばなかったが高い回収率は担任の提出物指導の賜と考える
		各行事への参加者の増加	前年度比5%増加(H31年度育友会総会207/349)		B	早期通知などの手立てを講じたものの、総会出欠は58.9%(189/321)、昨年(59.5%)とほぼ同率であり目標達成がならなかった。総会の重要性を説く必要がある
		情報発信の取組	年3回の発行	雲生るるの発行	A	学期1回の発行が予定どおり進んでいる。写真を多く取り入れた編集で好評を得ている
	入学者確保に向けた取組の充実	近隣地区の中学校への情報発信 ・中学校への訪問回数 ・HPの更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各中学校への3回以上の訪問</li> <li>・HPに全ての小学科及び部活動の動画掲載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報ポスター、チラシの配布</li> <li>・ホームページの充実(動画配信等)</li> </ul>	A	各学科の動画を掲載し、広報ポスターや中学校訪問で宣伝をしたことにより、HPの閲覧数が急増した。一方で中学校の職員からの反応が薄い部分があり、どれだけポスター等を配布、掲示してくれているかが不透明である。
		前期及び後期一般選抜受験者数	受験者数110名以上	ポスター配布やホームページを通して継続的に広報活動を行う	B	前期(特色)選抜の受験者数100名弱であったが、募集の校数は昨年度より増加していた。本校の強みを保護者へ伝える取り組みも考えていきたい。
		体験入学の参加者数	参加者数200人以上	内容を充実させるとともに、広報活動を充実させ、各中学校へ積極的な参加を呼び掛ける。	A	各科の参加者の合計が350名以上を越え、参加者全員が進路を決める上で参考になったと回答した。また、生徒が主体となって体験学習を指導したため、多くの中学生が本校生徒をロールモデルとして商業や工業について学びたいとアンケートの記述欄で書いていた。課題は実習棟が暑いことであり、何らかの対策が必要である。
学力向上	基礎学力の向上	チャレンジタイムの着実な実施のための時間確保	チャレンジタイムを8割以上実施し、学期末の3科目以上欠点保持者を各学年5人以下とする。	チャレンジタイムによる学び直しの充実 習熟度別指導の充実 定期考査前の学習会の実施	A	チャレンジタイムは授業日に対して約9割の実施ができた。3科目以上の欠点保持者は学校全体で5名以下であったが、欠点保持者の割合は1・2年で増加傾向にある。基礎学力定着に向けた取組が今後の課題である。
	教科指導の充実	公開授業週間の充実	参観率80%以上。	授業の見所をまとめ、職員間で共有することで参観率を上げる。	C	公開授業参観率は2割弱、授業の見所については4割が提出と低調であった。実施時期を含め、全面的に見直しをしなければと考えている。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
キャリア教育（進路指導）	目的意識の確立	進路ガイドの検討	3年間を見通した進路マップの作成	3年間を見通した意図的・計画的・組織的に進路指導を推進する。	B	各学年「自己理解」「自己伸長」「自己実現」の目標に向かって計画的な進路指導が行われているが「進路ガイド」（冊子）の活用が不十分な生徒も多い。早い時期から学年・学級で「進路ガイド」を熟読する機会を増やし、生徒の進路意識啓発に役立てたい。
		各学年・学科・教科への進路情報提供	学校紹介の就職率 100% 進学決定率 100%	きめ細かな指導を重ね、一人ひとりの生徒の進路意識を高揚させ、生徒の進路実現に努める。	B	1月末現在、進路決定率は99.2%である。就職希望者のうち1社目で不調だった生徒も、素早い動きで2社目を受験し、生徒全員が積極的に就職活動を行っていた。学年全体の意識の高さが伺えた。
		企業情報の共有	学年末までの1年生の7割以上、2年生の8割以上の目標決定	大学・企業・地域（行政機関・商工会議所）との連携をさらに充実させ、進路ガイダンス等の充実を図る。	B	2学期までの1・2年生進路希望アンケート調査では、卒業後の進路を遠い将来のこのように捉えている者も多い。3学期には進路講話や企業ガイダンス等を行うので、自己の目標を具体的なものとする指導につないでいきたい。
生徒指導	生徒支援の充実	不登校者数・転学者数	5人（昨年度7人）	生徒指導連絡会や生徒支援室会議での情報の有効活用とSSWやSCとの連携	B	会議等を通して生徒支援の充実は教育活動の様々な場面で図られ、手厚い対応がなされていると感じる。一方で、義務教育段階で何らかの支援が必要な生徒に対して十分な対応がなされず先送りされて入学してきた生徒の不登校・転学に係る手立てについて学校全体で取り組んでいる。
	情報モラル教育の徹底	インターネットやスマホでの誹謗中傷事案で指導を受ける生徒数	3件（昨年度4件）	集会やLHRでの啓発活動の実施。外部講師による講話の充実	B	SNSの不適切な利用の情報は把握できたものに関しては、その都度個人的指導を行い集会時に全体でも指摘し注意喚起しているが減る様子はない。モラルの向上を図るための手段が課題である。
	交通安全教育の徹底	交通違反・事故件数	6件（昨年度10件）	バイク通学生に対しては年2回の原付講習会の徹底。自転車通学生徒歩通学生に関しては街頭指導や交通講話等の機会を増やす。	B	バイク通学生に関しては事故8件、違反1件であった。新規バイク通学希望生徒の書類や準備物の不備等からも、乗せる前から事故に対する不安は年々増している状態である。乗せてからの指導にリスクを感じており、乗せる前に距離や保護者の同意に対してハードルを上げる必要性を感じる。
	主権者教育の充実	意識の高揚、選挙違反者数	全ての生徒が選挙に行くという意識を持つ。	外部関係機関と連携した講演会等の啓発活動。	A	山鹿市選挙管理委員会による講演を行うとともに、実際の選挙と同じ設備での生徒会選挙を行う等、選挙への意識付けを行った。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
人権教育の推進	仲間の大切さを認める環境づくり	アンケート評価	なかまづくりのアンケートでの「うまくいった」の回答8割以上	生徒支援室と連携してピアサポートワークの実施。	B	1年生で実施した。「うまくいった」の回答は8割であった。「いつも話さない人と話すきっかけになった」等の感想もあった。多角的にお互いを認め合う人間関係づくりに有効であったと考える。
	人権教育講演会の充実	職員の参加状況	全員1回以上の研修への参加	校外研修への参加	B	2学期末でのべ47名の研修参加であった(非常勤、事務の先生を除く)。日程の都合がつかなかった職員へは2月やまが人権フェスティバルへの参加を勧めている。
	命を大切にす る心を育む指導	アンケート評価	4段階評価でアンケートを実施し、満足度平均3.5以上	生徒が興味を持てる講師・内容の選定。	B	「障がい者の人権」のテーマで講演していただき、命の大切さを学ぶことができた。アンケート結果は平均3.5であった。また、山鹿市人権擁護委員と法務局に協力をいただき、3年生対象にデートDV防止人権教室を実施し、こちらも有意義であったと考える。
特別支援教育	困り感を抱える生徒の把握	支援室会議と校内委員会の充実	支援室会議(週1回)、校内委員会(6・10月)の実施	困り感のある生徒情報収集。	B	毎週1回生徒相談室にて担当教職員とSSWの会議を実施し、気になる生徒の情報交換、支援策の検討を行った。また年間2回(6・10月)に校内委員会を実施し学校全体の連携を図った。
	組織的な支援体制の構築	校内研修の実施および職員との面談の促進	校内研修(年1回)の実施 職員とSSW・SCとの面談の実施	教職員間の連携とSSW・SCへのつなぎ。	B	夏期休業中に生徒理解の研修を実施した。各担任から生徒について具体的な支援策などの情報提供があり、全職員での情報共有ができたことで、連携した生徒の支援につながった。また、学年主任を通して、各担任とSSWをつなぎ、迅速な生徒への対応ができた。SCと各担任との面談も100%実施することができた。
	個々の生徒に柔軟に対応した支援や指導の充実	支援策の検討	個別の指導計画、支援計画作成とその活用	支援策など情報共有と職員周知。	B	中学校訪問の実施や新入生面談(支援室担当職員、SSW、生徒、保護者)を入学前に実施し、義務制から引き続き支援が必要な生徒について支援策など情報収集に取り組んだ。各担任へ支援計画作成依頼をし、100%完成した。しかし十分な活用ができておらず、次年度への課題である。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
いじめの防止等	いじめのない学校づくり	いじめの早期発見、早期対応の取組	次回アンケートの「いじめが継続している」0件	いじめの防止のため、年間5回アンケートを実施	B	いじめはあったが継続していると答えた生徒は0人であった。直ぐに個別に対応し、保護者と連携しながら解決が図れた。アンケートに正直な気持ちを書かない生徒への対応が課題。
			月1回の生徒の状況に関する情報共有の実施	生徒指導連絡委員会の創設及び実施	A	各学年が主体となって生徒一人一人の情報収集に努め、各科、教科担任等が情報共有を図ったことで早期の対応が実現できた。
		いじめ事案数	7人（昨年度11人）	いじめの発生しない環境作り。いじめ匿名通報アプリの一斉導入	A	いじめを受けたという生徒が3名いたがいずれも早急に対応できた。アプリを活用した通報で2件トラブルを早期に解決できた。生徒達の中でアプリの認知や活用が進んでいると実感した。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	地域連携の充実	「かざぐるま」の活動	地域のイベントを中心に出店活動（地域イベントへ10件出店）	地元イベントとの連携の中で地域の人達との交流を盛んにする。	A	イベント出店は9件とほぼ目標を達成した。更に2月に実施される百華百彩への和傘出品や地元企業の協力を得て取り組んだ商品開発などを行っている。今後は取組の継続のための組織的な対応について検討していく。
			技術ボランティア実施回数	内容の充実を図り、年間10件以上実施（昨年度10件）	中学校説明会や学校広報誌等で取組をPRする。	B
	コミュニティ・スクールの機能の確立	学校運営協議会の活動	防災教育の充実、避難所指定に係る山鹿市との協定の締結	学校運営協議会委員との連携を強め、学校運営協議会を年3回実施する。	B	学校運営協議会については、7月と2月の2回の実施した。年間の活動の中で山鹿市との連携を強め、協定を2月に締結した。また、防災教育を全校生徒に対してワークショップ方式で実施し、非常食の体験等実践的な取組を行った。
地域と連携した取組の実施		合同防災訓練を近隣の小中高等学校や地域住民と協力して実施する。	学校運営協議会等を通して共通理解を図る。	B	合同防災訓練の実施には至らなかったが、本校独自の防災訓練に地域の区長や近隣高の管理職に参加いただくなど、連携した取組を進めた。	

#### 4 学校関係者評価

##### (1) 評価された点

- ・生徒の表情がよく、生き生きとしている。今後も取組みを進めるとともに情報発信の充実に努めてほしい。
- ・生徒研究発表が取組みの中で生徒の成長が見て取れる素晴らしいものであった。
- ・以前、周囲を巻き込んでほしいと申し上げたが、今回周囲と連携した取組みを進めていることが分かった。今後自分たちも一層貢献していきたい。

##### (2) 課題として指摘された点

- ・様々な取組みについて、情報発信をして周囲に伝えてほしい。
- ・中学校の生徒数が減少している中、山鹿市の4高校で連携してこの問題に取り組んでほしい。
- ・山鹿市の活性化のためにも、地域の企業との連携を進めてほしい。

#### 5 総合評価

##### (1) 本年度の学校教育目標

学校評価アンケートにおいて、「本校で充実した生活を送っている」の設問に対して、生徒から82%、保護者からは89%の肯定的な回答を得ている。また、「本校に入学させてよかった」との設問に対して、生徒からは73%、保護者からは92%の肯定的な回答を得ており、本校の教育目標に対して生徒及び保護者からの一定の評価を受けている。

また、専門的な職業能力の指導については、生徒からは92%、保護者からは93%の高評価を受けるとともに、社会の一員としての意識に関する指導について、生徒から90%、保護者から86%の高評価を受けており、「誠実で自立した産業人の育成」に向けた指導が実現しているものとする。課題も残されているが、本年度の学校教育目標については概ね実現することができた。

##### (2) 本年度の重点目標

###### ア 学力の向上と教科指導の充実

朝のホームルームの前に実施している「チャレンジタイム」については、授業日の9割以上実施し、基礎的な学力の定着を図った。結果として3科目以上の欠点を所持する生徒は減少したが、依然として全体的な学力向上が急務である。授業改善の取組として授業公開週間を実施し、授業の見所を各教師が記載したものを配布するなどして各教職員の授業改善への意識の涵養を図った。80%の生徒が「分かる授業、興味・関心が持てるような授業ができています」と回答しているが、今後の新学習指導要領の完全実施に向けて、一層の学校全体の教科指導力の底上げを図っていきたい。

###### イ 生徒指導の充実

生徒指導の充実を図るために、段階的指導や登校指導に取組み、全職員の共通認識のもとに指導を行った。その結果、基本的な生活習慣や挨拶・服装等に関する指導については、保護者・生徒ともに90%以上の高評価を受けている。今後も現在の取組みを進めるとともに、多様な生徒が入学してきており、個に応じた指導の充実も進めていきたい。

###### ウ キャリア教育の充実

本年度も1,900件以上の求人をいただき、3年生は100%進路を確定することができた。昨年度同様に、地方銀行や大手企業へ就職する生徒もいた。進学では専門学校が多いが4年生大学や県立技術短期大学校、職業訓練短期大学校等へ就職する生徒もいた。保護者・生徒からも約90%の高い評価を受けることができた。

###### エ 特別支援教育の推進

歓迎遠足、体育大会、商工フェスタ（文化祭）、芸術鑑賞、防災避難訓練等の機会を捉えて、菊池支援学校高等部山鹿分教室との交流を進めた。このことにより、生徒達はお互いの違いを理解した上で、相互に思いやりを持ち合って共に社会を生きていくことの大切さを理解した行動を取るようになっていく。

###### オ いじめの防止等

いじめ防止については、本年度新設した生徒指導連絡委員会にて生徒の様子を定期的に学年主任、生徒支援室、生徒指導部、養護教諭等で共有し、気になる生徒に対しては必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携する等して対応した。3月時点でいじめが継続していると答えた生徒はいないものの、今後もいじめが起ころうるものとして生徒に寄り添った対応を進める。

###### カ 地域連携

商業科・情報管理科では、地域のイベントへの出店などを積極的に行うなどして地域への貢献を図った。工業科においても、近隣と小中学校等からの依頼を受けて、設備や備品等の修理を行う技術ボランティアを行い、身に付けた知識・技能を地域に還元する取組を進めた。

###### キ 人権教育、道徳教育、主権者教育の充実

教職員の校内・校外の研修への積極的な参加による資質向上に取り組むとともに、生徒・教職員向けに外部講師を招へいした研修会を実施するなどして、人権や道徳に関する意識の涵養に努めた。また、山鹿市選挙管理委員会と連携した講演会と生徒会選挙を

繋げた取組を行うとともに、公民科を中心に主権者教育を進めた。

(3) 自己評価総括表

- ア 生徒数に対する安心メールの加入率は100%を越えているものの、全ての世帯で登録されている状況でもなかった。不測の事態における緊急連絡の面でも登録を強く呼びかけていきたい。
- イ 入学者確保に向けて、本年度から広報部を設置し、学校ホームページの頻繁な更新、学科や部活動の紹介動画の掲載や積極的な中学校訪問等を行った。前期(特色)選抜においては、昨年度より志願者が微増したが、より一層の魅力発信が必要である。
- ウ 社会人として必要となる資質として本校が徹底して指導している挨拶や服装に係る指導については、保護者・生徒からも高い評価を得ている。今後も継続して取組を進め地域や社会に信頼される商工生の育成に努めていきたい。
- エ 資格検定取得、専門的な知識技能の指導、安全教育に関する事項についても、非常に高い評価をいただき、専門高校としての役割を果たせているものと考えている。今後も教職員の資質向上に努め、生徒に対して質の高い教育を提供できるよう努めていきたい。
- オ 昨年度に引き続き、防災型コミュニティ・スクールの指定を受け、山鹿市内の公立高校と協力して学校運営協議会を実施した。地域住民の代表、行政、消防、警察とも連携し、防災に関する取組を進めることができた。本年度末に、山鹿市と覚書を取り交わすことができ、来年度からは総合型コミュニティ・スクールに移行する予定。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 生徒確保に向けた取組

前期(特色)選抜については、昨年度より受検者が若干増加した。また、受検する中学校の数が増えており、本年度広報活動が功を奏したものと考えている。ただし、後期選抜まで含めても定数を充足していないこともあり、早期からの中学生や保護者に訴求する広報について検討、実施していきたい。

(2) コミュニティ・スクールの推進

本年度、山鹿市と「災害発生時における学校施設の避難所等利用に関する覚書」の取り交わしを行うことができた。再年度からは、総合型のコミュニティ・スクールへの移行を行うこととなる。現在の防災に向けた取組を縮減させることなく、学校を総合的に地域と共に良くしていくための取組を進めていく。

(3) 授業改善

鹿本商工高校型アクティブラーニングの視点に立った授業の実施等、分かりやすい授業の実現に向けた取組を行っているが、アンケート結果によると生徒と職員の取組への認識に若干の差異が見られる。今後、新学習指導要領の実施に伴い、指導と評価の一体化や主体的・対話的で深い学びの実現が求められるため、教務部を中心として学校全体で取組を進めていきたい。

(4) 特別な配慮を要する生徒への対応

中学校の時には特別支援学級に在籍するなど、特別な支援を要する生徒の入学が年々増加している。学校としては、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーや外部機関とも連携し、万全の体制で支援に臨んでいるが、対応件数も増えており現行の体制での十分な支援が困難になりつつある。今後は、学校における一層の連携体制の構築及び担任教諭を支援する体制の構築を図るなどして、対応を進めていきたい。

## 令和元年度（2019年度）学校評価アンケート結果考察

### 1 はじめに

令和元年度学校評価アンケートは、生徒、保護者及び職員に対して実施し、平均回収率は97.6%であった。延べ45項目についての質問事項の内容は、学校全般について6項目、教務関係事項8項目、進路関係事項5項目、生徒指導関係事項11項目、総務関係事項5項目、保健体育関係事項6項目、専門教育関係事項4項目となっている。各対象別の質問項目は、生徒対象で37項目、保護者対象で33項目及び意見記述欄、職員対象で40項目を設定した。評価については4段階評価を用いている。評価4を良くあてはまる、評価3がややあてはまる、評価2があまりあてはまらない、評価1が全くあてはまらない、として評価平均が4に近いほど評価が高い設定とした。

### 2 結果分析

#### (1) 生徒評価について

最高値を示した項目は評価平均 3.51 のあいさつや服装などの身だしなみ指導に関する項目であった。評価の高い項目は、実習時の安全教育に関する項目 3.50、施設の安全管理に関する項目 3.45、実習室の整理整頓及び環境整備に関する項目 3.44。学校の施設の安全利用に関する項目と宿題や課題の提出に関する項目 3.42 であった。

評価が最も低い項目は、昨年度に引き続き、家庭学習の指導に関する項目で評価平均 2.98（昨年度 3.01）で、引き続き改善を要する評価であった。また、本校に入学しての満足度の評価が 2.98 で2番目に低かった。生徒が入学して良かった思える取組みが必要である。授業のわかりやすさに関する項目は評価平均 3.02 で、授業改善等に取り組んでいるものの課題が残る結果となった。

全体としては、過去6年間の平均と同様の傾向を示しているものの、生徒が入学して良かったと思える学校づくりのための工夫が必要である。

#### (2) 保護者評価について

最高評価を得たのは、あいさつや服装などの身だしなみ指導についてで、評価平均 3.50 であった。評価が高かった項目は、資格取得に対する指導 3.42、美化活動に関する項目 3.40、入学しての満足度 3.37、専門的な知識能力の育成 3.36 であった。

また、評価が最も低い項目は、生徒評価と同じく家庭学習に対する指導で評価平均は 2.88 であった。中退・不登校に対する指導に関する項目も 2.91 と低い評価であった。

保護者評価についても、過去6年間の平均と同様の傾向を示している。卒業時に保護者から本校に入学させて良かったと思っただけの学校づくりの工夫を行いたい。

#### (3) 職員評価について

最高評価を得たのは、生徒及び保護者への広報に関する評価、評価平均 3.73 及びあいさつや服装などの身だしなみ指導 3.73 であった。その他の評価が高い項目は、いじめなどへの対応に関する評価、評価平均 3.59、実習時の安全教育 3.57、交通安全教育 3.56、芸術鑑賞 3.54、資格取得に関する指導 3.53 であった。

評価が最も低い項目は、校務改革に関する項目で、2.56 であった。また、生徒・保護者評価で最も低い評価であった家庭学習に対する指導の評価平均は 2.63 と低いものであった。家庭学習に対する指導についての改善は見られたものの、生徒・保護者からの評価には繋がっておらず、校務に関する改善を進め、生徒と向き合う時間の確保が重要な課題として浮き彫りになった。

#### (4) 結果の考察について

数学的な統計処理により傾向分析を行ったところ、生徒評価及び保護者評価につい

ては、回答はほぼ過去6年間の平均と同様の傾向（有意差が認められなかった）であった。対して教職員の評価は有意な差が認められ、教職員の意識と生徒・保護者の意識に差があることが分かった。

本調査は最低値を1、最高値を4とする4件法で実施しており、中間値は2.5である。以下に、今回の調査結果の中の特徴的なものをいくつか上げる。

(4) - 1 広報に関する事項

生徒	保護者	教職員
3.14	3.25	3.73

本年度から広報部を新設し、学校ホームページへの動画の掲載や各種行事の掲載をこまめに行うなど広報に力を入れている。ホームページの閲覧数も昨年度の2倍以上となっており、このことが教職員の高評価につながっているものと考えられる。

しかし、これらの取組みについて生徒・保護者に対して浸透していないことが結果から分かった。今後は、学校としての取組みに関する周知を生徒・保護者向けにも手厚く行い、学校の取組みへの理解を得る必要がある。

(4) - 2 基礎学力向上のための取組

生徒	保護者	教職員
3.03	3.15	3.07

本校では授業改革と同時に、基礎学力の向上にも取り組んでおり、総合的に評価は高い水準である。今後、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた改革が求められており、授業改善を進めるなど、生徒が「分かった」と実感できる取組みの充実を図っていききたい。

(4) - 3 学校生活充実度

生徒	保護者	教職員
3.21	3.30	

生徒・保護者を対象にした質問項目「本校で充実した生活を送っている」については、保護者、生徒ともに高い数値であった。保護者からは、資格取得や進路に係る肯定的な御意見を多くいただいており、「就職（進路）に強い」鹿本商工、「資格に強い」鹿本商工を今後も充実させていく。

(4) - 4 入学して・させてよかった

生徒	保護者	教職員
2.98	3.37	

生徒・保護者を対象に質問した項目で、本校が重視する項目である。保護者からは高い評価をいただいているが、生徒の評価は3ポイントを下回るという結果であった。生徒に対して指導の意味を理解させながら、社会人として必要な資質を育む教育を行う必要性を感じる。今後は、保護者との共通理解の上での連携を更に深めながら指導に当たり、生徒が入学して良かったと思える学校づくりに取り組みたい。

(4) - 5 中退・不登校への取組

生徒	保護者	教職員
	2.91	3.33

日ごろから生徒の変化を注意深く見守り支援を進め、家庭訪問や面談を行っているも

の、毎年様々な事情から進路変更に至ってしまう生徒がいるのが現状である。支援のための外部専門家（SSW や SC）の活用は、職員に対して広がっており、職員の評価は年々上昇している。しかし、保護者からの評価が職員からの評価と乖離しており、取組みを周知し、保護者と学校が一体となって支援をしていく必要がある。

(4) - 6 与えられた宿題や課題は、きちんと学習し提出できている

生徒	保護者	教職員
3.42	3.20	3.19

生徒と保護者及び職員の差が目立つ項目となった。支援がなければ宿題や課題が提出できない生徒もあり、自主的な提出の有無が結果として現れたものと考えられる。社会人として必須の資質でもあるため、生徒の実態を考慮した支援を行いながら、家庭と連携しながら粘り強く指導を進めていく必要がある。

(4) - 7 家庭学習への取組

生徒	保護者	教職員
2.98	2.88	2.63

例年、評価項目の中でも低い評価で推移している項目で、本年度も評価平均が最も低かった。御家庭での指導も必要となる項目であるため、生徒の現状を把握した上での保護者と協力した一層の対応と改善が求められる項目である。

(4) - 8 挨拶や服装に係る指導

生徒	保護者	教職員
3.52	3.51	3.73

例年評価項目の中でも高い評価を受けている項目である。日頃からの指導が浸透しており、全体的に良い状況である。落ち着いた学校生活を送り、将来の自立した産業人として活躍できる人材の育成に向けて、現状に満足せず粘り強く指導を続けていきたい。

(4) - 9 進路指導に関する事項

生徒	保護者	教職員
3.15	3.03	3.19

生徒の評価と比較して、保護者の評価は低い傾向にある。進路に関する情報をしっかりと保護者に伝え、生徒・保護者・学校一体となって進路指導を進めていくとともに、3年間を見通した進路指導の在り方の構築を進めたい。

(4) - 10 育友会に係る書類に関する事項

生徒	保護者	教職員
3.37	3.11	3.33

生徒・教職員の評価に比べて、保護者の評価は低いものであった。生徒が催促をされながら最終的には提出できている状況があると考えられる。持ち帰って保護者に見せ、返事を学校へ提出することを体験させることで、責任感や些細なことでもきちんとやり遂げる態度を学ばせたい。

(4) - 1 1 資格検定取得、専門的な知識技能の指導、安全教育に関する事項

【資格取得に関する事項】

生徒	保護者	教職員
3.41	3.42	3.53

【専門的な知識・技能の育成に関する事項】

生徒	保護者	教職員
3.35	3.36	3.44

【安全教育に関する事項】

生徒	保護者	教職員
3.44		3.57

専門高校としてしっかりと指導すべき項目であり、高い評価を受けている。今後もこれまでの指導のノウハウを踏まえつつ、企業が求める人材に関する情報収集を進め、状況に合わせた指導が必要とされる。また、指導する職員の知識・技能の習得にも継続的に取り組みたい。

また、安全に関する項目は生徒、職員ともに高い評価であるが、生徒の安全にかかわる重要な項目であるため、今後も徹底した取組みを進めていきたい。

(4) - 1 2 校務改善に関する事項

生徒	保護者	教職員
		2.56

平成27年度から職員に対して加えた項目で本年度も低い評価となった。学校改革支援事業が平成27年度で終わり、それ以降は大きな改革が進んでいない状況がある。他校の先進事例等の情報収集と現状分析を進め、改革を進めることにより生徒と向き合い、支援する時間の確保が必要である。

3 保護者意見欄から

保護者からの御意見として、就職や資格取得の実績や学校からの支援や本校の就職に対する取組について肯定的な御意見を多数いただいた。また、社会人として必要な挨拶や身だしなみに関する指導についても信頼いただいている御意見が多く、今後も生徒の夢の実現と自立した産業人の育成への取組みを進めていく。

同時に、生徒間のトラブルへの対応の一層の充実、校則の見直しや今回のアンケートの設問の改善等についての御意見をいただいております。今後の課題として検討し、保護者の皆様と協力しながらよりよい学校作りに邁進していきたい。

番号	質問項目	対象	生徒	保護者	職員	評価		
						2未満	2~2.5	3~3.5
						2.5~3	3.5以上	
						生徒	保護者	職員
1	学校新聞やホームページ、一斉メールをとおり、生徒、保護者に対して適切な広報ができています。	生保職	3.14	3.25	3.73	○	○	◎
2	学校行事である商工フェスタやスポーツ祭は楽しく充実している。	生	3.24			○		
3	生徒徴収金に対する会計の明瞭化は適切にできています。	保		3.26			○	
4	本校の校内研修は、資質向上に役立っている。	職			3.26			○
5	わかる授業、興味・関心を持てるような授業が行われている。	生職	3.02		3.12	○		○
6	本校は基礎学力向上のため、十分な学習指導ができています。	生保職	3.03	3.15	3.07	○	○	○
7	公開授業や研究授業により教科指導の工夫改善を行い、分かる授業を行うことができています。	保職		3.12	3.03		○	○
8	与えられた宿題や課題は、きちんと学習し提出できています。	生保職	3.42	3.20	3.19	○	○	○
9	考査前の学習指導は適切にできています。	生保職	3.23	3.20	3.29	○	○	○
10	家庭学習の指導は適切にできています。	生保職	2.98	2.88	2.63	—	—	—
11	学年ごとに生徒の進路に応じた指導（キャリア教育）ができています。	生保職	3.20	3.14	3.12	○	○	○
12	進路ニュース等の情報提供は、適切にできています。	生保職	3.15	3.03	3.19	○	○	○
13	自らの進路を考える環境があり、望ましい職業観や勤労観を学ぶことができています。	生保職	3.25	3.12	3.12	○	○	○
14	社会の一員としての意識（公平、公正、勤労、奉仕、公共心等）をはぐくむ指導は十分にできています。	生保職	3.28	3.09	3.31	○	○	○
15	就職指導（学習）・進学対策への取組は適切にできています。	生保職	3.32	3.18	3.38	○	○	○

番号	質問項目	対象	生徒	保護者	職員	評価			
						2未満 . . . ×	2~2.5 . . . △		
						2.5~3 . . . -	3~3.5 . . . ○		
						3.5以上 . . . ◎	生徒	保護者	職員
16	基本的な生活習慣や規範意識をはぐくむ指導は十分できている。	生保職	3.27	3.20	3.47		○	○	○
17	挨拶や服装など身だしなみの指導は適切にできている。	生保職	3.52	3.51	3.73		◎	◎	◎
18	地域や校内で美化活動に積極的に取り組み、校内はきれいに整備できている。	生保職	3.19	3.40	3.42		○	○	○
19	命の大切さや人間関係づくりをはぐくむ指導は十分できている。	生保職	3.28	3.20	3.33		○	○	○
20	いじめなどへの対応は適切にできている。	生保職	3.23	3.10	3.59		○	○	◎
21	日頃から、周囲の人に対して、人権尊重を意識した言動に心がけている。	職			3.40				○
22	本校の人権教育は適切であり、人権について考える内容である。	生保職	3.30	3.05	3.45		○	○	○
23	関わる生徒に対し本校で充実した生活を送れるよう指導を尽くしている。	職			3.49				○
24	中退者・不登校の減少のための手立てを組織的に取組むことができている。	保職		2.91	3.33			-	○
25	本校で充実した生活を送っている。	生保	3.21	3.30			○	○	
26	学校版ISOの取組(節電、節水、整理整頓)は十分できている。	生職	3.10		2.96		○		-
27	ボランティア活動の情報提供や取組は十分にできている。	生保職	3.22	3.08	3.35		○	○	○
28	育友会関係文書は確実に保護者に渡し、担任に提出することができている。	生保職	3.37	3.11	3.33		○	○	○
29	広報紙「風青」及びPTA新聞「雲生るる」は生徒の活動を理解する内容になっている。	生保職	3.15	3.19	3.28		○	○	○
30	図書館は利用しやすい環境になっている。	生保職	3.34	3.09	3.47		○	○	○

番号	質問項目	対象	生徒	保護者	職員	評価			
						2未満 . . . ×	2~2.5 . . . △		
						2.5~3 . . . -	3~3.5 . . . ○		
						3.5以上 . . . ◎	生徒	保護者	職員
31	図書館だよりで紹介された本は読書の参考となる内容になっている。	生 職	3.07		3.49	○			○
32	芸術鑑賞は心豊かになる内容となっている。	生 職	3.31		3.54	○			◎
33	自らの健康（心身の健康や体力の向上）管理ができる指導ができています。	生保職	3.25	3.15	3.24	○	○		○
34	安全面・健康面に十分配慮した指導ができています。	生保職	3.29	3.23	3.47	○	○		○
35	交通安全教育（自転車や原付、委員会活動）の指導は適切に行われている。	生保職	3.41	3.24	3.56	○	○		◎
36	施設の安全管理は適切にできています。	生保職	3.42	3.21	3.33	○	○		○
37	丁寧で的確な電話の対応ができています。	保職		3.28	3.40		○		○
38	部活動をしたと思っている。指導は適切に行われている。	生保職	3.02	3.08	3.14	○	○		○
39	本校に入学して・させて良かったと思っている。	生保	2.98	3.37		-	○		
40	チャレンジタイムの活用で学習や読書への意識を高めることができています。	生	3.02			○			
41	資格取得に対する指導は充分できています。	生保職	3.41	3.42	3.53	○	○		◎
42	専門的な知識・能力の育成に向けた指導が適切にできています。	生保職	3.35	3.36	3.44	○	○		○
43	実習時の安全作業の指導は適切にできています。	生職	3.44		3.57	○			◎
44	実習室はきちんと整理整頓され、安全で学習にふさわしい環境が整っている。	生職	3.45		3.48	○			○
45	校務改善で生徒と向き合う時間が以前より増加した。	職			2.56				-
平 均 値			3.18	3.18	3.32				
標 準 偏 差			0.14	0.14	0.25				